

報道関係者各位

世界 COPD デー2009

肺年齢スパイロ体験イベント
～ 横浜市の2会場で840名の肺年齢をチェック ～
参加者の平均肺年齢は63.2歳（実年齢+8.9歳）
11.4%にCOPDの疑い

「COPD（Chronic Obstructive Pulmonary Disease：慢性閉塞性肺疾患）」の啓発活動を行う世界的な組織 GOLD（Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease）は、毎年11月中旬の水曜日の1日を世界 COPD デーと定めており、この日に向けて世界各国で COPD への関心を高める活動を行っております。2009年の世界 COPD デーは11月18日です。GOLD 日本委員会では今年10月24日（土）および11月7日（土）に、横浜市で一般市民を対象に肺年齢スパイロ体験イベントを開催しました。

10月24日横浜市・新都市プラザ、11月7日に横浜市・赤レンガパーク（第19回すこやかかながわ万人健康ウォーク in 横浜 健康生活展会場内）で行った肺年齢スパイロ体験イベントでは、852名が肺年齢をはじめとする呼吸機能をチェックしました。うち840名の肺年齢スパイロ結果を解析しましたので、ご報告いたします。

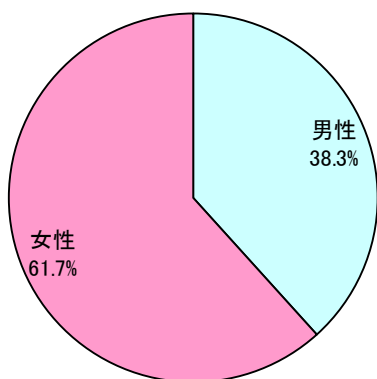
＜結果概要＞

一般市民840名の肺年齢チェック結果

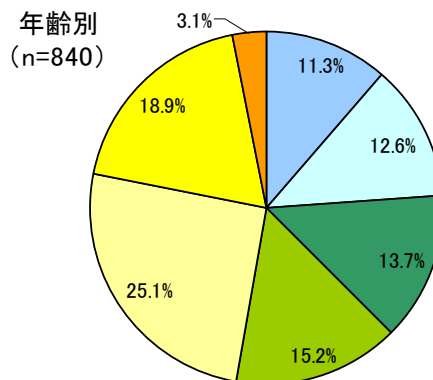
【参加者】

- 参加者の内訳は、男性322名（38.3%）、女性518名（61.7%）であった。
- 年齢層は10代～80歳代と幅広く、60歳以上が47.1%と約半数を占めた。

性別
(n=840)

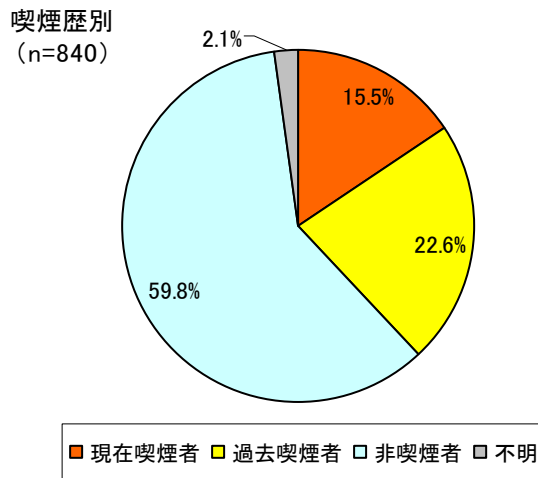


年齢別
(n=840)



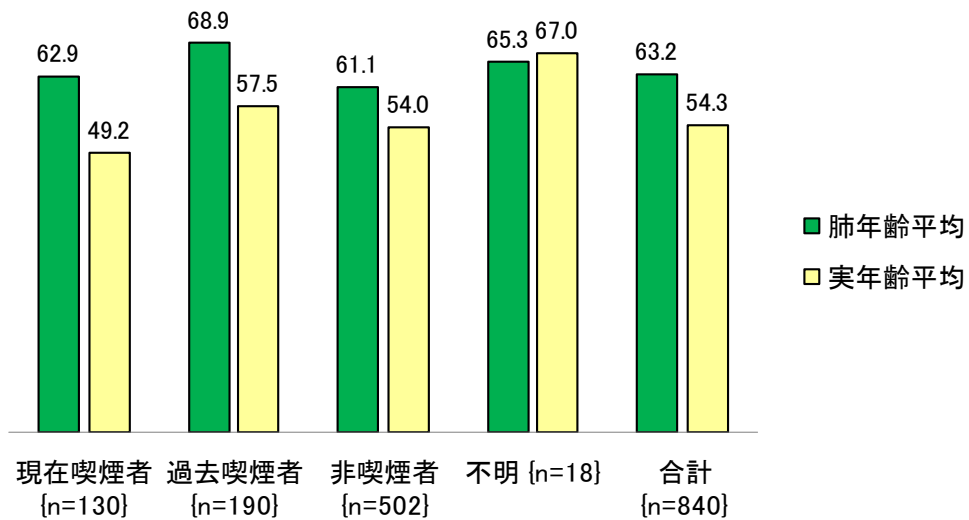
～30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代
60歳代	70歳代	80歳代	

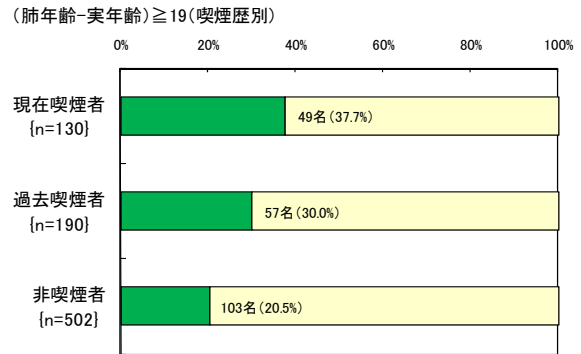
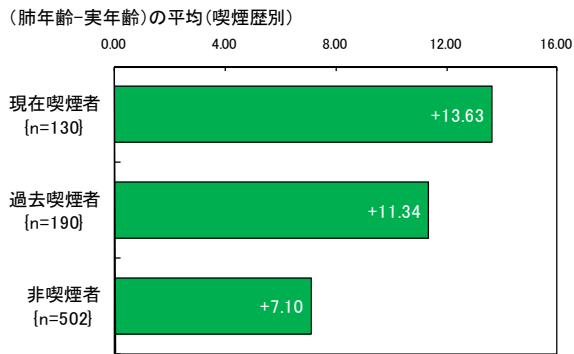
- 参加者の喫煙歴を尋ねたところ、現在喫煙者 130 名 (15.5%)、過去喫煙者 190 名 (22.6%)、非喫煙者 502 名 (59.8%)、無回答 18 名 (2.1%) であった。



【参加者の肺年齢】

- 参加者全体の肺年齢の平均値は 63.2 歳と、実年齢平均値 54.3 歳に比べて 8.9 歳高かった。肺年齢と実年齢の差を喫煙状況別にみると、現在喫煙者が一番大きく 13.6 歳、次いで過去喫煙者の 11.3 歳であり、非喫煙者では差は 7.1 歳であった。
- 肺年齢が実年齢より 19 歳以上高い場合、何らかの肺機能障害が実際にあることが多いと言われている (日本呼吸器学会 肺年齢ハンドブック)。肺年齢が実年齢より 19 歳以上高い人の割合は、現在喫煙者 37.7%、過去喫煙者 30.0%、非喫煙者 20.5%と、喫煙歴がある方が肺機能障害が疑われる率が高かった。

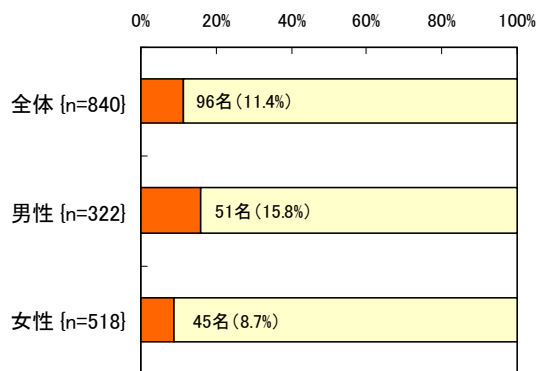




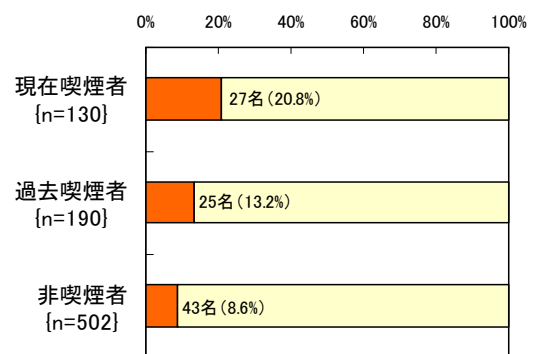
【COPD が疑われる人の割合】

- 肺年齢を測定するスパイロメトリーは、COPD でみられる閉塞性障害を早期に診断することができる。肺年齢スパイロ体験参加者のうち、スパイロ検査で1秒率が70%未満であった人（COPD など閉塞性障害の疑いがある人）は、全体で96/840名（11.4%）、男性51/322名（15.8%）、女性45/518名（8.7%）であった。
- 喫煙状況別にみると、スパイロ検査で1秒率が70%未満であった人は現在喫煙者27/130名（20.8%）、過去喫煙者25/190名（13.2%）、非喫煙者43/502名（8.6%）と、現在喫煙者でその割合が高かった。
- 1秒率70%未満の人の割合は、年齢が高くなるほど高かった。

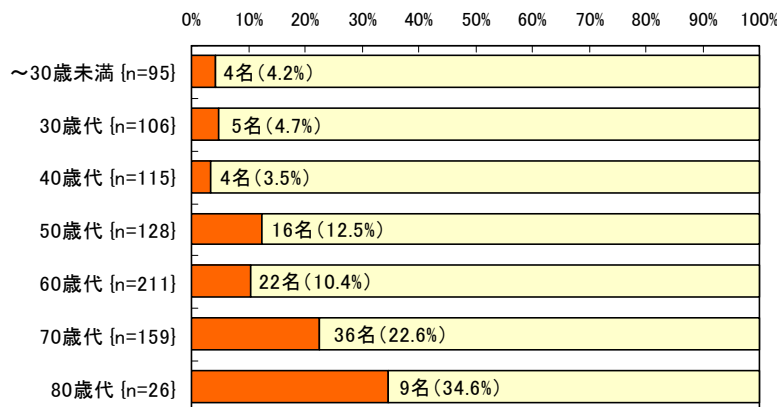
1秒率70%未満(性別)



1秒率70%未満(喫煙歴別)



1秒率70%未満(年齢別)



- 2003年から世界 COPD デー推進日本大会として実施してきた一般市民のスパイロ検査による肺機能チェックの結果をまとめて示す。毎年、1秒率70%未満の人が、10%前後見つかっている。通常的生活を送る健康な人たちの中にも、肺機能が低下している人が一定の割合いることを示す興味深い結果であり、COPDの疾病啓発と、スクリーニングとしてのスパイロ検査の普及が望まれる。

	2003年 (東京)	2004年 (東京)	2005年 (東京・京都)	2006年 (福岡・京都)	2007年 (札幌)	2009年 (横浜)
1秒率70%未満の人の割合	7.3% (33名/452名)	8.2% (53名/643名)	7.6% (79名/1044名)	9.1% (73名/803名)	9.5% (41名/433名)	11.4% (96名/840名)
6年間の合計						
1秒率70%未満の人の割合	8.9% (375名/4215名)					

【まとめ】

- 過去数年間のスパイロ検査イベントでは、街頭検査を受ける一般市民の中にも10%程度のCOPDが疑われる人がいることがわかっている。このように、スパイロメトリーは早期COPDの発見に有用であるが、検査の認知度が低く、受ける機会も非常に少ない。
- 肺年齢チェックは、健康な非喫煙者でも年齢が若干高めに出る傾向があったが、一般市民の関心も高く、スパイロメトリーを受ける動機づけとして有用であると考えられる。
- 肺年齢スパイロが一般の医療機関でも普及していくことにより、肺年齢、すなわち肺の健康に関心を持つ人が増え、COPDを含む呼吸器疾患の早期発見につながることを望まれる。

☞ COPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease : 慢性閉塞性肺疾患) とは喫煙が主な原因とされる肺の生活習慣病。気管支の炎症や肺の気流閉塞により呼吸困難を起こす慢性の呼吸器疾患で、息切れ、咳、喘鳴、痰の増加が特徴的な症状です。日本では 530 万人以上の患者がいて推計されていますが、実際に治療を受けているのは約 22 万人に過ぎず、残り 95% は未治療のまま病気を進行させてしまっている可能性があります。高齢化や喫煙開始の低年齢化に伴い、今後患者数が増加することが懸念されています。また WHO (世界保健機関) の調査によると、COPD は 2020 年に死亡原因の第 3 位になると予測されており、世界規模での早急な対応が迫られている重篤な疾患の一つです。

☞ GOLD (Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease) とは COPD に関する医療水準の向上と啓発活動を行うため、WHO と NHLBI (米国立心肺血液研究所) の呼びかけのもと、日本を含む世界 50 カ国以上の専門家が中心となり発足させた組織です。2002 年から、毎年 11 月のある 1 日を「世界 COPD デー」に制定し、COPD の予防、早期発見・早期治療の普及を目的にさまざまな活動を展開しています。今年の世界 COPD デーは、「11 月 18 日」です。

☞ 肺年齢とは (参考: 肺年齢.net www.hainennrei.net/)
肺年齢は、呼吸器疾患の早期診断・早期治療に向けて、肺の健康に対する関心を高めてもらうために社団法人 日本呼吸器学会が提唱するコンセプトです。呼吸機能は、年齢とともに低下しますが、同性・同年代の人と比べて自分の呼吸機能がどの程度であるのか、肺年齢というわかりやすい指標で確認できます。
スパイロ検査と言われる呼吸機能検査でわかる 1 秒量 (FEV₁) と身長、性別から計算することができます。

☞ GOLD 日本委員会 (GOLD Japan Committee: GOLD JAC) とは GOLD の活動を推進するために 2007 年 10 月 6 日に発足した組織です。順天堂大学医学部呼吸器内科客員教授 福地義之助先生を委員長として呼吸器の専門医がメンバーとなり、賛同するスポンサー企業がこの活動を支援しています。
2004 年より世界 COPD デー推進日本大会の企画・運営を行ってきた世界 COPD デー日本委員会を発展的に継承したもので、世界 COPD デー以外にも活動の幅を広げ、年間を通して COPD 啓発活動を行うことで、COPD 患者さんの QOL の向上および COPD 治療の発展に寄与することをめざしています。

- 共催: GOLD 日本委員会、アストラゼネカ株式会社、アボット ジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、杏林製薬株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、田辺三菱製薬株式会社、帝人ファーマ株式会社、ニコメッドジャパン株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、ファイザー株式会社
- 後援: 神奈川県、日本医師会、日本呼吸器学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本呼吸器疾患患者団体連合会

***** この件に関するお問合せは、下記までお願いします *****

GOLD 日本委員会事務局 本岡/菅原
TEL 03-3597-0175 FAX 03-3597-0177
東京都千代田区永田町 2-13-1 ゼクセルビル赤坂
株式会社エム・シー・アンド・ピー内

スパイロ検査説明書&質問票

- ① 身長、体重、性別、年齢、喫煙歴やあてはまる症状を記入して検査員のところにお持ちください。

身長() cm
体重() kg
性別(男 ・ 女)
年齢() 歳

喫煙歴

- なし
 現在喫っている
1日()本()年間
 過去に喫っていた
1日()本()年間
禁煙した時期()歳のとき

次のような症状がある

- よく咳(セキ)をする
(天候により、セキがひどくなることもある)
 風邪をひいていないのに痰(タン)がからむ
 朝起きてすぐタンがからむことがよくある
 喘鳴(ゼイゼイ、ヒューヒュー)が時々またはよくある
 今現在(もしくは今まで)アレルギーの症状がある

- ② 検査員の指示にしたがって検査を受けてください。

- ③ 検査結果について

- ◆FVC(努力性肺活量):
息を最大限に吸ってから強く吐き出したときの息の最大量。
- ◆FEV1.0(1秒量):
息を最大限に吸ってから強く吐き出したとき、最初の1秒間の息の量。
- ◆FEV1%(G)(1秒率):
1秒量をFVC(努力性肺活量)で割ったもの。息の吐き出しにくさ(閉塞性障害)の指標となります。1秒率が70%未満の場合、閉塞性障害の可能性がります。
- ◆%1秒量:
項目FEV1.0のところの3つの数字のうち、一番右側(%予測値の欄)の数字が%1秒量です。あなたの1秒量が、身長、性別、年齢が同じ健康な人の正常値と比べて、どれくらいかを表すもので、COPD重症度の指標となります。

各項目の「測定値」欄の数字が、あなたの測定結果です。「予測値」は、あなたの身長・性別・年齢から予測される正常値、「%予測値」は、予測正常値に対するあなたの検査結果の割合を%で表したものです。

【データの集計・活用について】

このカードに記載いただいた性別、年齢、喫煙歴、症状の有無について、および検査結果を集計したデータは、参考データとして発表することがあります。その場合は、検査結果を貼りつけたカードをコピーさせていただきますのでご協力ください。個人々の記載情報や検査データを公表することはいたしません。(コピーへの同意をもってデータの集計・活用に同意いただいたものといたします)

検査結果シートを
貼りつけて体験者に
お渡しください。